

# 防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

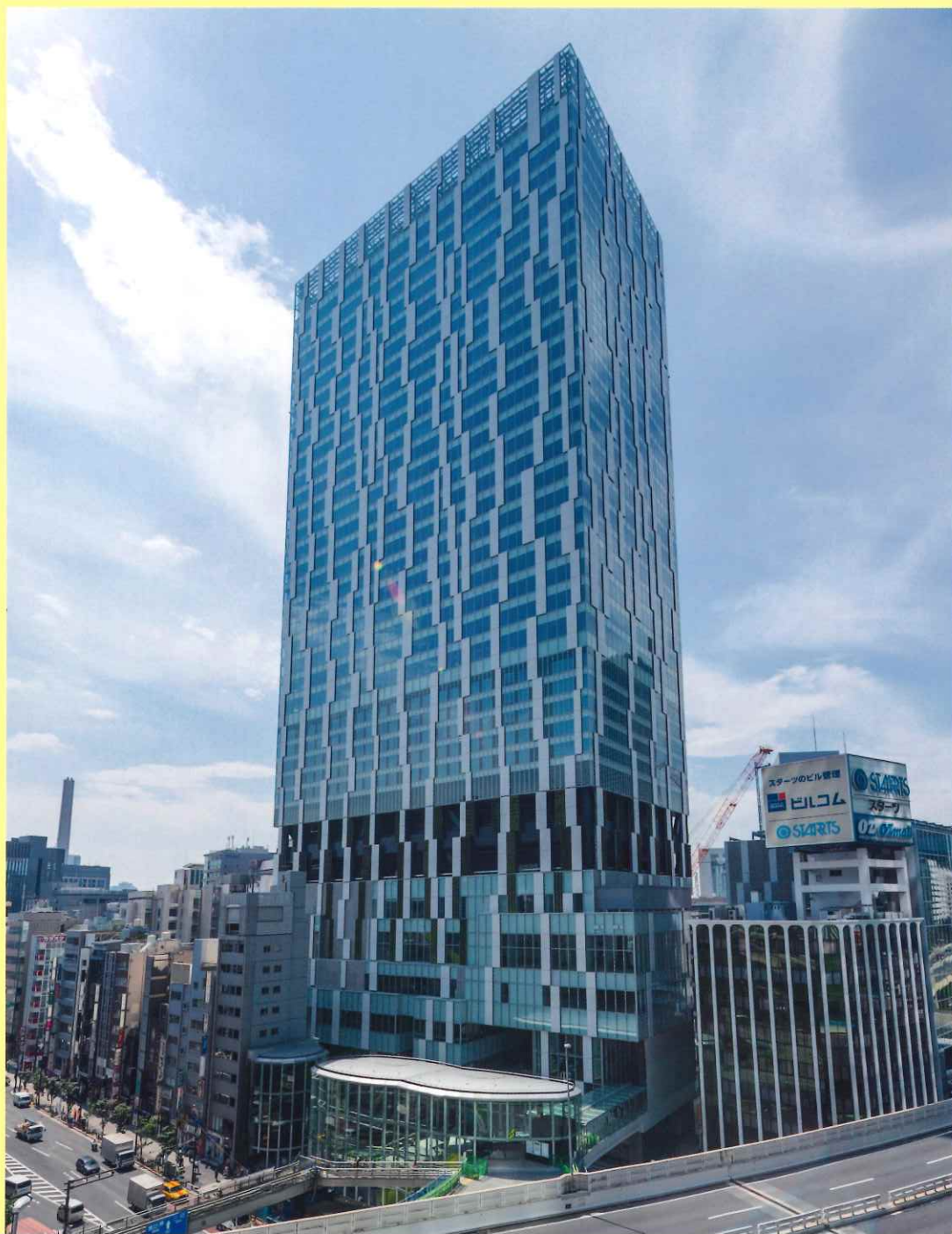
# 10

2018

No.563

特集

- 塩ビ系シート防水による環境負荷低減
- 駐車場防水の要求性能



## 昆虫などが家屋に入る建物の隙

鈴木 哲夫

木造住宅で、どういう訳か室内に虫が出るという話をよく聞く。また、木造建物の小屋裏にミツバチやスズメバチが入り込んで巣を作られてしまったケースや、コウモリやネズミなどの小動物が天井裏に住み着いていたという話もある。

屋根や外壁は、構造材、下地材および仕上材などの材料と、いくつかの工程を経て構築され、それぞれに取合いがある。また、設備配管の貫通部もあり、小屋裏や天井内につながる隙がいくつもできることがある。

ミツバチは、4mm程度の隙間を好み、巣ができやすい。写真1は、5月中旬頃のミツバチの分蜂時期に、玄関の屋根ケラバの隙間から小屋裏内にミツバチが侵入する様子である。また、写真2は、屋根の葺替えてケラバ金物を撤去した際に、軒先の広小舞と登りヨドとの納め方によって、小屋裏とつながる隙間が見つかった例である。建物の周囲において、このような部位は少なくとも角の4ヵ所に発生し、出張りがあればさらに増える。屋根のリフォームの際には、このような部分を良く調査して、写真2右下のように隙間を塞いでおく必要がある。

写真3は、入母屋状の屋根で、屋根がぶつかる切付部に隙間ができています。この部分をシーリング材で塞ぐことになるが、裏に潜った水抜きを考えると隙間を作っておきたい。しかし、水抜き穴からは逆に水が入ることもあるため、写真3右下のように最小限にしたいところである。

ところが、これによって小屋裏とつながる巣作りに格好の隙間ができることになり、昆虫の入り込む隙になる。この問題を何とか解消するために、カール状ステンレスタワシの一部を使って昆虫が入らないように隙間を埋め、一方で水抜き

はできるようにしたのが写真4である。

このほか、木造住宅の基礎回りでは、最近は少なくなった床下の換気金物周囲の入隅に隙ができる。モルタル塗りが甘く、小さな隙でもネズミが入ることがある。小さいヒメネズミが晩秋の頃に入ってくるケースが主だが、おそらく、温かい住宅の中で越冬するためであろう。さらに、ネズミを追ってヘビが入ることもあるので、古い家屋で外壁などのリフォームを行う際は、できるだけ下地を含めて、隙間探しに努めたいところである。



写真1 巣作りで隙間に集まる分蜂ミツバチ

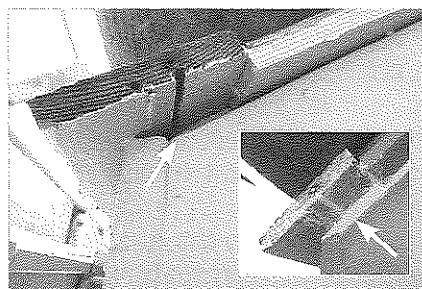


写真2 屋根のケラバ回りにできやすい隙間



写真3 小屋裏とつながる軒のふところの水抜き隙間



写真4 タワシのカール状ステンレスで屋根と化粧破風の水抜き穴を処理

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役